

「前置詞」as の特異性に関するノート

小川 明

(昭和63年9月28日受理)

On the Preposition *as*

Akira OGAWA

(Received September 28, 1988)

O. いわゆる「前置詞」の *as* にはどこか奇妙な性質があって、単に前置詞として一筋縄では捉えることができないところがある。まず前置詞に続くのは主として名詞句 (NP) に限られるのに対して、*as* の後にはその他形容詞句 (AP), 前置詞句 (PP), Ving, Ven がかなり自由に生じることができる。文例は Hatori (1982) による。

- (1) a. She stayed on as a doctor.
- b. ...they see existing treatments of semantics as inadequate, ...
- c. The distinction between specifier and complement is to be regarded as of no theoretical significance.
- d. Hallways, rather than main offices, are thought of as having two sides, ...
- e. He regards me as being a fool.
- f. This fifth class may be negatively characterized as made up of all those words that cannot find any place in any of the first four classes.

第二に、*as* の次に続く要素は先行する名詞句の補語 (あるいは述語) の役割をはたしていることである。Emonds (1984) は、*as* NP の NP が補語に類似した役割を持っていることを意味と統語上の性質から論じている。

- (2) a. John would be a poor choice as Hamlet.
- b. We introduced him as John's brother.
- c. This house is famous as a rendez-vous.

- d. Women as engineers still surprises some people.

(2)の例文から明らかな様に、*as* に続く NP は文の主語あるいは目的語 (イタリック体で示されている) がなっている個体 (individual) か、それらが持っている属性を示している。(a)でいえば、John は Hamlet である。すなわち *be* 動詞などに続く補語の NP と意味上同じ機能をはたしている。また統語上も *as* に続く NP と補語の NP は同じふるまいを見せる。Emonds はたくさん例を挙げているがひとつだけ示すと、どちらの NP も分裂文の焦点の位置に来ない。

- (3) a. *It was the manager that John seemed happiest as.
- b. *It was John's brother that we introduced Sam as.
- c. *It was a teacher that he has always been.
- d. *It was my regal residence that I considered this home.

この性質はやや異った形ではあるが、すでに伝統文法において指摘されている。伝統文法では次の (4b) (5b) の *as* 句全体は、それぞれ (4a) (5a) と同様「主格補語」「目的格補語」とされる。

- (4) a. He died a catholic.
- b. She stayed on as a doctor.
- (5) a. I don't think you a fool.
- b. She described him as a clown.

ただ Hatori (1982) が正しく指摘するように、同じ「補語」といわれていても *as* を伴う形とそうでない形では質的な差がある。

- (6) a. They characterized *John as a coward.*
- b. *They characterized *John a coward.*
- c. *They characterized *John to be a coward.*
- d. *They characterized *that John is a coward.*
- (7) a. I admit *her as wrong.*
- b. I admit *her wrong.*
- c. I admit *her to be wrong.*
- d. I admit *that she is wrong.*

これらの例は, as を伴わない形の (6 b) (7 b) が不定詞構文, that 節と親近性を持っていて, as を伴う (6 a) (7 a) が仲間はずれであることを示す。John と a coward, her (she) と wrong の間の主語—補語の関係は, as を伴う形より伴わない形の方に強く感じられる。さらに Hatori は as 句をとらない assume, believe, guess, judge, maintain, assert, prove などの動詞が, 真偽判断を含む信念 (belief), 証明 (proof), 主張 (assertion) の意味を表わすことから考えると, NP+as 句つまり John as a coward, her as wrong は真偽判断を表わす命題 (proposition) を示すのではなくある種の「性格づけ」(characterization) であると考えられる。これは重要な指摘と思う。

1. 以上二つの性質は密接に関連しあっていて決して別々のものではない。しかしながら, このノートでは第二の性質に主として焦点をあわせて考察してみることにする。ここでは二つの目標を設定する。第一にこの性質を説明するのに, どんな提案がなされてきたかを概観し, 問題を指摘する。第二に従来あまり注目されて来なかった言語事実を示す。

この主語—補語 (述語) の関係を捉えるために今までどんな提案がされてきたのであろうか。まず最初に「構造」によって説明しようとするものを取り上げてみる。Postal (1974), Borkin (1984) は,

- (8) a. We regard him as being highly qualified for the job.
- b. We regard him to be highly qualified for the job.

の(a)(b)どちらにおいても him は基底構造では, 補文の主語, つまり he be highly qualified for the job であって, 上昇変形によって regard の目的語の位置

に移動して, 表層構造で目的語になると考える。

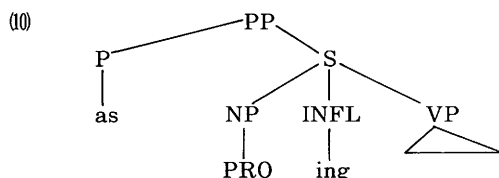
一方 Chomsky (1981) は,

- (9) John regard [Bill as stupid]_s

において, Bill は基底構造ではもちろん表層構造でも小節 (small clause) の主語になっていると主張する。以上の二つは, 表層構造では目的語と主語と意見が分かれるにせよ基底構造では主語になっていると考える見方である。このことによって as の次に来る要素が先行する NP の補語 (述語) になっていることは説明される。

さて以上の方式と対立して, (8 a) の him, (9) の Bill は派生のいかなる段階でも主語である時はなく, 首尾一貫して目的語であると考えられる説がある。そして him と being highly qualified for the job および Bill と stupid の間の主語—補語 (述語) の関係は上昇変形規則ではなく, 他の手段によって説明される。Williams (1980) は, Predicate Structure というレベルを新しく設け, 今問題にしている as 句を含む主語—述語関係を指標によって示す。

新しいところでは, Tanaka (1987) は PRO を導入した基底構造を提案した。as 前置詞句に次の構造を仮定する。



as は補部として XP ではなく S をとり, その中に PRO が存在する。具体例を挙げると,

- (11) a. I regard him [_{PP} as [_S PRO being a teacher]]
- b. John strikes me [_{PP} as [_S PRO being pompous]]

この PRO の存在によって him と being a teacher, me と being pompous の間の主語—述語の関係は説明されることになる。

以上は, Williams はやや異なるが, いわば「構造」に依存した説明方式である。ところがこれらと性質が全く異なるやり方が提案されている。as そのものによってこの主語—述語関係に説明を与えようとするものである。原沢 (1979 : 610), McCawley (1983 : 280-2), Emonds (1984 : 127-44) は, as 自体が be に対応し

ているのではないかという意見を提出している。

- (12) a. I'm against a general *as* *President*.
 b. You're not pleased at the idea of me *as* *Master*.
 c. With Schwartz *as* *goalie*, our team is sure to lose.
 d. With Reagan *as* *President* but Carey *as* *governor*, politics in New York state is quite amusing.
 e. He came to the party *as* *a monkey*.
 f. Women *as* *engineers* still surprises some people.

原沢は(a)(b)の例について、as がはなはだ being に近いという意見を述べる。McCawley は(c)(d)に関して、元々この as は be であり、(c)では Schwartz be goalie が基底の形で、ある条件の下では be が as に変わるのだという提案をしている。また Emonds も as は be に対応する前置詞であり、前置詞も動詞と同様、他動詞的なものと、自動詞的なものと、be, become の様に補語をとるものがあると考え、(e) (f)の as は be の様に補語をとるものに入ると見做す。

次に as を be に対応させるのではなく、決定詞 (determinative) と見做す考え方がある。Curme (1931: 34) は, As a teacher, he is a stern disciplinarian. や He was detested as a Tory. のような文について、as は次に続く名詞の a teacher, a Tory を指していて、それゆえ同一という意味が出てくると考える。

- (13) Here *as* ... *as* a determinative... points as with an index finger to the following noun which expresses the idea in mind, thus always indicating *oneness with, identity*.

小川 (1985) も as を代用形 (proform) と見做す。しかし Curme と異なり、as は後続する要素ではなく、先行する要素を指示すると考える。つまり(12)の例において as は、(a) a general, (b) me, (c) Schwartz, (d) Reagan と Carey, (e) He, (f) Women をそれぞれ指示すると考えるのである。さらに(1)の例までさかのぼれば、as は (a) She, (b) existing treatments of semantics, (c) The distinction between specifier and complement, (d) Hallways, (e) me, (f) This fifth class をそれぞれ指示すると考えるのである。一

方 as (being) NP, as (being) AP, as (being) PP, as Ving, as (being) Ven において as は主語になっていることになる。これらの連鎖は being が任意の要素である点も含めて、分詞構文の連鎖と似ている。さらにこのように as が代用形として機能していると考えられるありふれた用法がある。as が関係代名詞として用いられる場合である。

- (14) a. He is a teacher, *as* became clear from his manner.
 b. *As* was expected, he performed the task with success.

また方言によっては、as が関係代名詞 who, which, that が用いられるところに生じる。

- (15) a. I can't be the only man *as* walks along this street and wants a fag.
 b. there's not many *as*'ll say that.
 c. You know, the old gardener chap *as* works here now and then.

そして小川で論じられているように、as は前置詞の用法を含むすべての用法において代用形として機能しているのではないかという疑いがある。以上は主語—述語の関係を「構造」ではなく as そのものの機能に頼って説明しようとする試みである。

2. 今まで as の特異な性質についての謎解きの苦闘を垣間見てきたのであるが、どれが as の本質に一番迫っているのだろうか。今まで提案された説明の仕方について、若干の感想を述べてみたい。まず(8)(9)において regard に続く名詞句 him, Bill は目的語であって Chomsky のように主語とは見做せないことは, Hatori (1982), Tanaka (1987) によって確立されたと考えてよいのではないかと思われる。

また原沢, McCawley, Emonds の as=be 対応説も小川 (1985) で明らかにしたように、次の文を含めて考察すると瓦解してしまうであろう。as の次に being が生じることがある。

- (16) a. He regards me *as being* a fool.
 b. One fact struck Anthony *as being* possibly of significance.
 c. Paul's marriage seemed to inspire the public *as being* particularly romantic.

ここでも as=be と対応させるとすれば、I am being a fool. One fact is being possibly of signifi-

cance. 等, 進行形になるはずである。しかし実際は I am a fool. One fact is possibly of significance. に対応させなければならない。as を無視しなければならないのである。さらに as の次には being ばかりでなく, 他の動詞の -ing 形も生じる。

- (17) a. He had never conceived of Miss Scheele as having family or relations.
 b. Their clothes and demeanour proclaimed them as belonging to the middle rank.
 c. The Party does not regard the current two-year period of national service as having come to stay.

ここでも as Ving の Ving は進行形に対応しているのではない。それどころか進行形は存在しないのである。Miss Scheele had family or relations. vs. *Miss Scheele was having family or relations. ; they belonging to the middle rank. vs. *they were belonging to the middle rank. これらを考えると as=be 対応説を放棄せざるをえないのである。

小川(1985)を書いた時点では Curme (1931) が as を決定詞と考えていることには気づかなかった。Curme と小川の差は, as が先行する要素を指示するのか, 後続の要素を指示するのかによる。Curme (1931: 260-1) は as が元々は all so であったことから, I am going to bed, as I'm very tired. は元は I am going to bed, so (=it is thus): I'm very tired. であって so すなわち as は後続する I'm very tired. を指示すると考える。so が as に変わらずそのまま残っている例がある。たとえば I went early so I got a good seat. たしかに as が後続するものを指示すると考えられる例はある。しかし as は常に後続する要素だけを指示するのであろうか。すでに示した(14)(15)の例を考えてみると明らかなように, 先行する要素を指示すると考えた方が妥当と思われる場合もあるのである。それ故 as について, すべて一律に指示する要素が先行するか後続するかは決定できない。ひとつひとつの用法について決定する必要がある。それではここで対象にしている as についてはどうであろうか。

(13)の Curme の説明をもう一度見てみよう。ひとつ疑問が湧く。何故 as が後続する名詞を指示することが, 同一性を示すことになるのか。ここの論理がちょっ

とわからない。一方小川では as (being) NP, as (being) PP, as Ving, as (being) Ven の連鎖において as は主語になっていて, かつ as は先行する NP を指示するのであるから, その NP と as の次に続く要素が主語—述語(補語)関係にあることは自動的に出てくることになる。

さて Tanaka (1987) の説の問題点は, その論文自体の中で指摘されているように, GB 理論との整合性にある。このことはその論文の中で述べられているように何らかの解決策があるであろう。ただ言語事実との関連で問題になることをひとつ指摘しておきたい。前述した如く Tanaka は as 句を as S と分析するのであるが, 次の

- (18) a. We refused him as a teacher.
 b. As a teacher, we refused him.
 (19) a. We refused him as being a teacher.
 b. ??As being a teacher, we refused him.

における文法判断の差を説明するために, (18a) の As a teacher に限って as S ではなく as NP とする。そうすると PP 前置化規則 (PP-preposing rule) は, すでにその論文の中で確立されているように, as S には適用されないので, (19b) の非文法性は説明されることになる。一方 (18b) は as NP なのでこの制限に抵触せず文法的になる。しかしながら(18)と(19)のどちらにおいても him と a teacher ないしは being a teacher の間に主語—述語関係は依然として存在する。ところが(18)は as NP と考えるために, (19)のように PRO による説明は不可能である。これはどのように解決されるのであろうか。

以上 as の性質を説明するために今まで提案された方式を概観し, 若干の感想を述べた。

3. 次に as の分析が視野に入れなければならない, いくつかの言語事実を述べてみたい。今までの研究の多くは as 前置詞句をさらに下位分類している。たとえば Hatori (1982) は, 次の(20)と(21)の間を区別している。

- (20) a. John regards Bill as a fool.
 b. Now we will define S and \bar{S} as possible complex predicates.
 (21) a. Mamie refused the medicine as a deliberate challenge to the nurse's authority.
 b. Sally ate a lot of chili as a child.

- c. *As a man of science he was admirable, but one cannot praise him as a husband.*

⑳の as 句は、いわゆる「目的格補語」になっているが、㉑の as 句はそうではない。as 句は、(21 a) では Mamie refused the medicine を修飾し、(21 b) では Sally と関係し、when she was a child の意味で、(21 c) では he と結びついて、in the capacity of a man of science の意味になる。

この区別は統語現象にも反映されている。㉒の as 句は、前置化が不可能であるが、㉑の as 句は可能である。

- (22) a. **As a fool John regards Bill.*
b. *As a deliberate challenge to the nurse's authority, Mamie refused the medicine.*

第二に、㉑の as 句は動詞の意味の変化を伴わず省略できるが、㉒の as 句は不可能である。

- (23) a. **John regards Bill.*
b. *Mamie refused the medicine.*

第三に do so は㉑の as 句とは共起できるが、㉒の as 句とはできない。

- (24) a. **John regards Bill as a fool, but I do so as wise.*
b. *Mamie refused the medicine as a deliberate challenge to the nurse's authority but John did so as a mere joke.*

Borkin (1984: 12) も次の(a)(b)を区別する。

- (25) a. *Max introduced Harry as the world's greatest frogman.*
b. *Further investigation will reveal the land as being worth more than you think.*

(a)は Max introduced Harry を含意するが、(b)は Further investigation will reveal the land. を含意しない。これは Hatori の第二の区別と関連している。

さらに Postal (1974: 241-2, fn. 27) も、対象としている I regard Max as (being) incompetent. のように上昇変形とは関係なく、性質が異なるものとして、次例を挙げている。

- (26) a. *I want you as my friends.*

- b. *I need you as my assistant.*

- c. *Joan likes Bob as her neighbor.*

これらの区別は、おおよそ as 句が「主格補語」と「目的格補語」の役割をはたしている場合と、そうでない場合に分けていると言ってよいであろう。しかしながらこのような区別にもかかわらず、すべて as の次に続く要素は文中の他の要素と主語—述語関係を結んでいるのである。(20)(21)(25)(26)の例すべてそうである。

- (20) a. *Bill is a fool.*

- b. *S and \bar{S} are possible Complex predicates.*

- (21) a. [*Mamie refused the medicine*] was a deliberate challenge to the nurse's authority.

- (25) a. *Harry was the world's greatest frogman.*

- b. *The land is worth more than you think.*

- (26) a. *You are my friends*

- b. *You are my assistant.*

- c. *Bob is her neighbor.*

このことは本ノートで今までにとりあげたすべての例文についてあてはまるし、次のような名詞を限定するタイプの as 句についても言える。

- (27) a. *Adjectives as heads.* (Adjectives are heads.)

- b. *The Genitive as a noun.* (The Genitive is a noun.)

- c. *You, We and They as Indefinite Pronouns.* (You, We and They are Indefinite Pronouns.)

それ故すべての as 前置詞句は、区別することなく共通に同一のメカニズムによって主語—述語関係が説明されるべきであると思われる。

4. その一方で、「主格補語」と「目的格補語」の位置にある as 句とそれ以外の位置にある as 句とでは、as の次に来る要素について差が見られる。

Inoue (1984) は、as の次に来る要素は NP が一番自然であって AP, PP の順に容認度が落ちることを指摘している。Inoue は主として「目的格補語」の as 句について考察している。この as 句では、たしかに NP が一番自然かもしれないが、NP 以外の要素 AP,

PP, Ving, Ven もかなり自由に生じることが今まで見てきた通りである。このことは「主格補語」についてもかなりあてはまる。

ここで問題になるのは、この二つ以外の機能を持つ as 句ではどうなるかということである。そこでは NP が圧倒的に優勢であるように思われる。収集した例文の中で NP 以外の他の要素を含む例はあまりない。いくつか挙げてみる。

- (28) a. Should *run* be listed in the lexicon as being essentially composed of *go by running*, where *running* is an *Insurment case* ?
- b. Use these three points as supporting details under "The Watergate Scandal" entry.
- c. The Russians might be forgiven if they dismiss these quadrennial turnabouts as pandering to American voters.
- d. ... Chomsky adopted De Saussure's distinction between *langue* and *parole* as essentially correct and of central importance to linguistics.
- e. The two distinctions serve the same role, viz. to isolate the object of inquiry ... as independent of and logically prior to its concrete manifestations
- f. In the third place, the adoption of the formalist sign-concept is attacked as inappropriate for linguistics, ...

なぜ「目的格補語」の時はかなり自由にさまざまな要素が生じうるのであろうか。Hatori (1982 : 91) は、次の二つの文

- (29) a. I consider John *to be a fool*.
 b. I regard John as (being) a fool.

の間に強い類似性があることを指摘していて、「動的文法理論」で説明できるような関係があるのではないかと言う。これは多分正しいであろう。Inoue (1984 : 99-103) もまたこの二つのタイプの間の関係性を論じている。(29 a) のタイプの文の時は、as 句に対応する不定詞の部分にはさまざまな要素が生じることができる。

- (30) a. I consider John *to be a first-rate salesman*.

- b. I consider myself *to be lucky*.
 c. I consider them *to be in the wrong*.
 d. I consider him *to have acted disgracefully*.
 e. I consider him *to be saying exactly the opposite*.

それ故このことが対応する「目的格補語」の as 句の中に多様な要素が生じる原因になっていると思われる。

5. 最後に今までの as の研究の視野にまともに入れてこなかった種類のデータを指摘する。次のような例である。

- (31) a. Portland stone ... *Its* qualities as building material have been recognized.
 b. *Its* history as a fortress dates back to the days of Richard.
 c. He nursed it along for *its* value as anti-Catholic propaganda.
 d. *My* own acceptance as a tenured faculty member at a Japanese university is proof of this trend.
 e. *My* feeling as a linguist is that a solution will be found.

これらの例では、as の次に続く NP は先行する NP 全体に対して補語になっているのではなく、先行する NP の中に含まれている所有格と関係を持つ。(a)は *Its* qualities are building material ではなく *It is building material* であり、(b)は、*Its* history is a fortress ではなく *It is a fortress* であり、(c)は *it is anti-Catholic propaganda.*, (d)は *I am a tenured faculty member at a Japanese university.*, (e)は *I am a linguist* である。これは今まで対象にしてきたものと全く異なる。

さらに所有格ではなくその位置に形容詞が生じる場合もある。

- (32) He refuses to accept Hacker's belief that "*American* history as a nation has reached its end."

ここでは *American history is a nation* と関係づけるのではなく *America is a nation* としなくてはならない。このタイプの as 句は(27)のようにすぐ前の名詞を限定するものに限られるようである。

このタイプの as 句はどのように説明されるのであ

参考文献

ろうか。今までのものと切り離して別扱いで処理するのであろうか。もしそうだとすると、主語—述語関係が何らかの形ですべての as 句に見られる事実を無視してしまうことになる。これは重要な一般化を捨ててしまうことになるのではないか。やはりすべての as 句を包含した統一的な説明方式を考えなくてはならない。

6. 本ノートでは次のことを試みた。まず「前置詞」as に続く要素が文中の他の要素—主として NP—と、主語—述語（補語）関係を結ぶという事実を説明するために、過去どんな説明方式が提案されてきたか概観した。そしてその提案の問題点を指摘した。第二に as の研究が視野におさめなければならない言語事実を三点述べた。(1)「主格補語」「目的格補語」の役割をはたす as 句とそれ以外の as 句のどちらにも共通に主語—述語関係が貫徹していること。(2)それにもかかわらず、この二種類の as 句の間には as 句の中に生じる要素に関しては差があり、「主格補語」「目的格補語」の as 句の中の方が多様な要素が生じること。(3)今までともに対象にならなかったタイプの as 句があること。例えば、*Its history as a fortress dates back to the days of Richard.*

以上 as の特異な性質を調べてきたのであるが、本質的な説明原理さえ見つかれば、as の他の用法も含めて、きれいに解決してしまうことが可能であるという印象を持った。

- Borkin, A. 1984. Problems in form and function. Norwood : Ablex.
- Chomsky, N. 1981. Lectures on government and binding. Dordrecht : Foris.
- Curme, G. O. 1931. Syntax. Boston : D. C. Heath and Co.
- Emonds, J. 1984. The prepositional copula *as*. Linguistic analysis 13, 127-44.
- 原沢正喜. 1979. 現代英語の用法大成. 東京 : 大修館.
- Hatori, Y. 1982. *As*-complement as prepositional phrase. Linguistics and philology 3, 74-95.
- Inoue, I. 1984. Derivative processes in *as* constructions. English linguistics 1, 87-104.
- McCawley, J. 1983. What's with *with*? Language 59, 271-87.
- 小川 明. 1985. *As* の機能に関する試論——*As* は万能代用形ではないか (その1). Litteratura 6, 1-24.
- Postal, P. 1974. On raising. Cambridge, Mass. : MIT Press.
- Tanaka, S. 1987. The structure of prepositional *as*-constructions. 英文学研究 第64巻 第1号, 97-114.
- Williams, E. 1980. Predication. Linguistic inquiry 11, 203-38.